

# 矢倉学区の地域協働合校について

【資料4】

## 地域で実施する地域協働合校の内容（概要）

- ・普段から地域活動に子どもが参加することは、子どもにとって価値のある経験であり、教育となる。
- ・大人にとっても培ってきた経験や技能を発揮する場となり、自身の生き方に影響を与えたり、生きがいになるなど、人生を豊かで充実したものにする効果も期待できる。
- ・この観点から、地域の日常的な活動に子どもが参加できる機会を学校と連携しながら創出し、地域の特色を活かした活動を展開する。

## 令和6年度の地域協働合校事業

### わんぱくプラザ事業

- ① 8/3(土) 『わんぱくプラザやぐらっ子「草津川探検」』  
参加者数：児童20名、保護者18名  
(部会から1名、滋賀県琵琶湖科学研究所センターから1名)  
子どもたちが実際に川に入って生き物を捕獲。  
滋賀県琵琶湖環境科学センターの酒井先生から、  
魚の捕まえ方の指導を受け、  
アユ、ヨシノボリ、ニゴイや、エビ、タイコウチ、  
オタマジャクシなど19種類の生物を捕獲し、  
生態や環境について学習した。  
《今後の予定》12/25(水)わんぱくプラザ習字道場  
2/1(土)けん玉道場



### 防災キャンプ・講座・訓練

- ② 『子ども防災キャンプ in 希望が丘文化公園』  
7/23(火)～24(水)  
参加者数：児童29名、保護者6名、大学生5名（各班の補助）  
(一部見学の保護者3名、宿泊の保護者3名)  
(部会の方1名、他団体で日常的に協力してくださっている方3名がサポート)  
小学4～6年生の児童が参加して、1泊2日の防災キャンプを実施。防災士の指導のもと、5班に分かれ、防災ものしりクイズ、避難所運営ゲーム、テントの設営、ビニール袋で炊飯等を行った。



## 地域協働合校の課題に対する取組

### 事業を行ううえでの課題点

事業に協力する地域の方の高齢化  
→次世代の協力者を見つけていく必要がある。

### 現在行っている取組

- ①大学との地域連携  
立命館大学と連携をし、大学生の取り組みや先進的な視点を学び、地域課題の発見などにつながる考え方を養う。  
このことにより、事業に協力する地域の方の負担を減らすことができた。  
②事業の親子参加を可とする→30～40代の親世代の参加を促す  
これまで子供の自立を目的として“子どものみ”的な参加を求めていた。  
→まずは事業内容を保護者に実際に見ていただき、継続的に地域のイベントに参加いただくために、親子参加可とした。

### 期待する効果

- ・子どもたちにとって世代の近い大学生と一緒に取り組むことで、新たなつながりと学びが生まれる。
- ・保護者の方に気軽に参加し協力ができる実感していただくことができ、協力者の発掘や育成につながる。
- ・親同士の会話、意見を反映し、皆でより良い事業をつくりあげることができる。

## 矢倉学区の事業内容

### 地域協働合校事業内容

#### わんぱく プラザ事業

#### 防災キャンプ・ 講座・訓練

#### なかよし 広場

### なかよし広場+にこにこレストラン

- ③『なかよし広場+にこにこレストラン』

6/1(土)

参加者数：児童17名、保護者12名  
(再生保護女性会、健康推進員、社会福祉協議会の方合わせて9名が事業のサポート)

なかよし広場第1部は「でこぽん」さんによる、「絵本のおはなし会」を実施。第2部の「和凧の工作」では、思い思いに絵をかき骨組みに貼り付け組み立て。

「にこにこレストラン」では、健康推進員さんが作ってくださった、カレーを、保護者と一緒に食事。

→11/24(日)に『手作り給食』を実施（今回）

### 《今後の予定》

12/7(土)なかよし広場+にこにこレストラン  
1/18(土)BohNoの手作りお菓子  
2/8(土)なかよし広場+にこにこレストラン